

読解力向上プラン Ver.1

読解力育成のため、まずはここから始めよう ～はじめの一步～

○読書を推進し、未知の世界や新しい言葉と出会う楽しさを味わわせ、豊かな心を育みましょう。 ・読み聞かせをする。 ・本を読ませる。 ・新聞を読ませる。	○全ての教科等において、声に出して読むことを大切にしましょう。 目と耳を働かせ、語のまとまりに注意して読むことで、言葉や文の意味を正確に理解できます。	○正しい筆記用具の持ち方で丁寧に書かせ、学習に向かう基本的な姿勢を育てましょう。 ・視写 ・聴写	○集中力をコントロールし、正しい手順で正確に処理できるよう、自己調整力や粘り強さを育てましょう。 ・筆算・実験・観察 ・調理
---	--	--	--

学年の目安	指導のポイント(意識的に取り組むこと)	RSの視点
低学年	① 主語と述語を明確にして、見たことを短い文で説明させる。	係り受け解析
	② 身近な自然に接する時間をとり、対象をじっくり観察させる。	イメージ同定
	③ 言葉や文と、絵や図とを対応させて考えられるようにする。	イメージ同定
中学年	④ 学習のめあてに沿った振り返りやまとめをさせる。	同義文判定
	⑤ 記述式の解答が正答例と同義であるか判断させ、同義になるように修正させる。	同義文判定
	⑥ 見たことを正確に文章にしたり、絵に描いたりする活動をさせる。	イメージ同定
	⑦ 図や表、グラフを活用して文章等にまとめさせる。	イメージ同定
	⑧ 「～を・・・という」のような定義文を全員で確認するようにする。	具体例同定
	⑨ 知識を暗記させるのではなく、意味を理解できるよう、理由を口頭で説明させたり、具体例を挙げて説明させたりする。	具体例同定
	⑩ 主観的な表現(～と思った、～がおもしろかった等)を制限し、論理的に考え、表現させる。	具体例同定
高学年以上	⑪ 「とても」「すごく」「よかった」などの定型的な言葉を使わずに文章を書いたり話したりさせる。	係り受け解析 具体例同定
	⑫ 人に何かを伝えるときには、見たことや聞いたこと、考えたことを省略せずに丁寧に説明させる。	照応解決
	⑬ 箇条書きを使って、時系列で客観的に手順を説明させる。	同義文判定 イメージ同定
	⑭ 既存の知識と習得した知識を活用して論理的に説明させる。	推論
	⑮ 用語の定義を理解させ、「とは」を使って説明させる。	具体例同定
	⑯ 複数の段落で構成された文章を200字程度でまとめさせる。	具体例同定

発達段階に応じて特に意識したい時期の目安を示しています。
児童生徒の実態や単元の学習内容に合わせ、柔軟に取り組みましょう。

☆読解力育成のために、先生が心がけたいこと

- (1) 授業の前に、教科書の中の、児童生徒が理解できないと考えられる語や表現を確認しておく。
- (2) 教科書の図や表、グラフなどについては、文章のどの部分と結び付いているのかを確認しておく。
- (3) 「理由」「根拠」「原因」など学習に用いる言葉は、定義を児童生徒と確認してから使う。
- (4) 児童生徒の話を遮ったり簡単に引き取ったりせず、最後まで話をさせる。